

科学技術・学術審議会基礎研究振興部会での審議内容について(具体例)

1. 基礎研究の振興について

我が国の基礎研究を10～20年先を見据えた視座から発展させるために、基礎研究の振興に資する内容を幅広く取り扱い、議論を行う。

その中に含まれる個別施策(事業)については、例えば以下の内容が考えられる。

- ・ 創発的研究支援事業
- ・ 戦略的創造研究推進事業(新技術シーズ創出)
- ・ 世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)
- ・ 数学・数理科学と諸科学、産業・社会を協働するプラットフォーム組織・体制の整備

2. 基礎研究の更なる発展に向けた研究DXの推進について

基礎研究に求められる役割・機能の変容し、その重要性が増大するなか、研究の取り組み方についても変革が求められている。

新たな価値創造を目指した、AI for ScienceなどのAIやデジタル技術とデータ活用による研究活動の変革(研究デジタルトランスフォーメーション(研究DX))に関する内容について、議論を行う。

その中に含まれる個別施策(事業)については、例えば以下の内容が考えられる。

- ・ 研究のデジタルトランスフォーメーション(研究DX)の推進(研究DXプラットフォームの加速・高度化)
- ・ 量子コンピュータ・スーパーコンピュータの組合わせによる研究DX基盤の高度化(TRIP)
- ・ 生成AIをはじめとするAI開発力の強化(科学研究向け基盤モデルの開発・共用(TRIP-AGIS)等)

3. 基礎研究の社会的意義・価値について

基礎科学の知的アセットを適切に価値化して、より良い社会の実現に向け、社会との間で好循環を形成することが必要となる。

基礎研究の共通認識(基礎研究の役割、国内外の動向等)を確認し、基礎研究の社会的意義・価値及びそれらを適切に評価するための方策について、議論を行う。

等